表彰

横浜市医師会学術功労者表彰を受けて

いずみ野皮ふ科　**増田智栄子**

平成25年の秋に、横浜市皮膚科医会渡辺知雄幹事長から「横浜市皮膚科医会から、横浜市皮膚科医会での活動、地域在宅医療での活動などを評価し、横浜市医師会学術功労者に推薦することにしました」とお話がありました。このように評価していただいたことは、大変光栄で有難く思い、お受けすることに致しました。

また、２年前の袋秀平先生の表彰に続き、横浜市皮膚科医会からの推薦を横浜市医師会で承認いただいたことは、毛利忍会長、渡辺知雄幹事長のご尽力の賜物と深く感謝致します。

浅学非才の身で、長く務めること以外になんのとりえもございませんが、自分の来し方を振り返ってみました。

まず横浜市皮膚科医会の幹事にいつなったのか、今存在する議事録では確認できず、加藤安彦先生にお調べ戴いて、平成３年に幹事に就任していることが分かりました。当時は、日本皮膚科学会の後実績の係をして、毎回例会に一番乗りして後実績カードの準備をしました。制度がなくなった時はホッとしました。平成12年からは常任幹事、平成20年からは副会長となり、23年間携わっています。

その間、例会企画の時に、他の学会で面白かった講演で、横浜でじっくり聞きたいものを時々提案しており、少しは皆様のお役にたっているのではないかと思っています。

また、平成２年12月横浜市泉区で開業以来、地域の個人宅や施設の往診を積極的に行ってきました。と同時に、区役所、訪問看護ステーション、特別養護老人ホームなどで褥瘡、疥癬や老人の皮膚疾患などの講演を随時開催し、皮膚科在宅医療の啓蒙に努めてきたように思います。

在宅医療に関しては、患者と医師だけでは医療が成り立ちません。家族、介護者、訪問看護師、役所などの方々と知識を共有していかないと患者さんを治していくことが出来ません。それで、要請があればいろんなところで講演をしてきました。

ある特別養護老人ホームでは、おむつ皮膚炎が多くその対策の講演を依頼されました。数施設で、使用おむつのメーカー名、交換回数、便の性状などを調査し、おむつ皮膚炎の多寡は排便コントロールが最も関係していることを話し、下剤の中止や減量、おむつ交換回数の改善で、その後格段に軽快しました。問題意識を持った集団に、それについてお話しすると一体感が生まれ、双方ともに治療に対するモチベーションが上がります。

難しいことは何も話していませんが、学会で仕入れた知識と日ごろの診療で得た考えを目の前にいる方々に応じてお話ししてきたことは、患者さんに寄り添って噛み砕いて伝える開業医としての役目ができたのではないかと考えます。

表彰状

横浜市皮膚科医会
増田　智栄子　殿

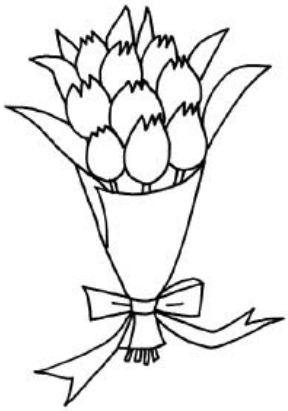
あなたは永年に亘り横浜市皮膚科医会の発展に寄与され現在に至るまで学術講演活動の円滑な運営に尽力し会員の生涯研修に貢献されていることは誠に功績顕著であります
よってここに記念品を贈り表彰いたします

平成二十六年三月十八日
一般社団法人　横浜市医師会
会長　古谷正博

ただ地道にそして長く務めさせていただきました。全く秀でてはいませんが、コツコツやってきたことを、評価していただいたものと大変うれしく思います。

今回もうひとつうれしいことがありました。

夫も保土ケ谷区医師会推薦で一緒に表彰されました。夫婦の表彰は初めてだそうです。

ところで、横浜市にも神奈川県にも優秀な先生方がたくさんいらっしゃいます。皆さん、表彰は受けたほうがいいと思います。励みになります。今後はどんどん推薦する方に廻りたいと思います。

最後になりましたが、今回の表彰は、皆様のお陰と感謝しております。有難うございました。